



研究テーマ

1 宮崎県沿岸の魚類相の把握

2 魚類を対象とした日本列島沿岸の海洋生物地理学的研究

3 エスチャリー（河口域）とその周辺環境の魚類による利用様式の解明

研究概要

こんにちは、農学部海洋生物環境学科の村瀬と申します。私は、学生時代より岸近くにすむ魚の分類や生態を専門とした研究を行ってきました。ここ宮崎県は暖かい黒潮の流れる太平洋に面した南北に長い沿岸をもつだけでなく、県北部では瀬戸内海からの海流も届いており、多様な海洋環境を有しております。また、山間部からは大小30前後の河川が海に流れ込み、生物生産に必要な栄養を海に運んでいます。そんな宮崎県の沿岸の環境の多様性の大切さを魚類の多様性と生態の観点から明らかにすることが私の研究室の目標です。調査や研究でわかったことは水生生物ハンドブックや魚類図鑑として出版することで、県内外の皆さまへの地域の魅力発信にも努めています。

1 宮崎県沿岸の魚類相の把握

地域の環境の多様性は生物の多様性に反映されることが一般的です。海岸を例えると、すべてが砂浜であれば砂地を好む魚しか現れません。しかしその砂浜に川が流れ込んでいるだけで、栄養豊かになるだけでなく、複雑な地形や山から運ばれてきた堆積物によって干潟ができていたりします。するとそのような特殊な環境にだけ生息できる魚も現れるようになります。さらに岩場や藻場ができていけば相乗効果として、その場では数え切れないほどの魚種が狭い範囲に集まることになります。このような観点から、宮崎県沿岸の基礎的な生態情報として、各地域で採集・漁獲された魚類資料（標本・写真等）を収集し、魚類相から見た宮崎県沿岸の特徴を明らかにし、海洋生物にとって宮崎県の手がかりとなるような場所なのかを明らかにしていきます。

2 魚類を対象とした日本列島沿岸の海洋生物地理学的研究

上記のような魚類相の情報は日本列島の各地で得られ、論文や書籍として発表されています。各地域における魚種の組み合わせは緯度や経度によって微妙に異なっており、その海域の海流や気候、地形を反映した構成となっています。宮崎県を含めた日本各地の魚類相の情報を地点間の類似度などに着目して分析することで、日本列島の各地の地理的なつながりや境界が明らかとなってきます。このことは4000種類を超える日本の魚類の多様性の起源や各地域の生物相の特性とその形成過程の理解に貢献します。

3 エスチャリー（河口域）とその周辺環境の魚類による利用様式の解明

淡水と海水が交互に行き来し、閉鎖的になった環境をエスチャリー（estuary）と呼びます。いわゆる河口域がその代表例にあたりますが、宮崎県には潟湖と呼ばれる湖のような地形もあります。これらのエスチャリー環境は生物生産が最も高い場所と言われていますが、魚類によるこの環境の利用について未解明な点が多くあります。私たちはこのエスチャリーとそこから続く砂浜などの環境が魚類にとってどのような役割を担っているのかを成育場という観点からの解明を目指しています。

ホームページ

宮崎大学延岡フィールド

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/nfield/>

技術相談に応じられる関連分野

- ・沿岸性魚類の同定
- ・魚種から見た河口・沿岸域の環境評価
- ・水生生物ガイド・図鑑制作

メッセージ

当研究室は野外調査が好きな人が集まります。また、水生生物をテーマにした環境教育を行ったり、魚かるたなどの教材も作ったりしています。水辺の生きものが好きで、その楽しさを知ってもらいたい、と思っている人にとっても楽しめる研究室だと思っております。

村瀬 敦宣

むらせ あつのぶ
農学部
海洋生物環境学科

准教授

キーワード

魚類、魚類相、生物多様性、海洋生物地理、宮崎県、沿岸、河口域、エスチャリー、砂浜、成育場所、環境教育

特許情報・共同研究・応用分野など

- ・さかなの町門川町の網羅的な魚類多様性情報の確立と情報発信プロジェクト（門川町との連携事業）
- ・『宮崎県のさかなのまち 門川の魚図鑑』の出版（門川町ふるさと納税お礼の品に選定）
- ・『さかなのまち 門川の魚かるた』の制作（門川町ふるさと納税お礼の品に選定）
- ・稚仔魚期のアユの生態および資源状況に関する研究（宮崎県水産試験場からの受託研究）